

MACF 礼拝説教要旨

2023年8月27日

「神のものは神に」

ルカによる福音書 20 章 20 節～26 節

20 そこで、機会をねらっていた彼らは、正しい人を装う回し者を遣わし、イエスの言葉じりをとらえ、総督の支配と権力にイエスを渡そうとした。

21 回し者らはイエスに尋ねた。「先生、わたしたちは、あなたがおっしゃることも、教えてくださることも正しく、また、えこひいきなしに、真理に基づいて神の道を教えておられることを知っています。

22 ところで、わたしたちが皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていないでしょうか。」

23 イエスは彼らのたくらみを見抜いて言われた。

24 「デナリオン銀貨を見せなさい。そこには、だれの肖像と銘があるか。」彼らが「皇帝のものです」と言うと、

25 イエスは言われた。「それならば、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」

26 彼らは民衆の前でイエスの言葉じりをとらえることができず、その答えに驚いて黙ってしまった。

ここに出てくる「正しい人を装う回し者」という言葉自体、本当に卑怯な人と言う感じがしますね。

しかし、なんとかして彼らはイエス様を捕縛して、凹ませたいと思っていたのです。

1) 宗教的には、具体的な世界では

この回し者の言い方はとげがありますね。

「先生、わたしたちは、あなたがおっしゃることも、教えてくださることも正しく、また、えこひいきなしに、真理に基づいて神の道を教えておられることを知っています。」

イエス様に向かって、あなたは正しい人だ、しかし、具体的な世界での対応はどうなんですか？という感じの言葉です。

彼らこそ、宗教の世界は宗教の世界、具体的な世界は具体的な世界での対応という感じで別物として生活していたのだと思います。

2) 意地の悪い質問

「22 ところで、わたしたちが皇帝に税金を納めるのは、律法に適っているでしょうか、適っていないでしょうか。」

この質問は答え方によっては大問題になるものです。

もし、「皇帝に税金を納めなさい」と言えば、間違いなく「異邦人である皇帝に対して税金を払うなど、ユダヤ人に対する裏切りだ。お前はユダヤ人の救い主と言っているのではなかったか」と責め立てることができることになります。

逆に、「皇帝に税金を支払うな」と言ったら「お前は皇帝に逆らうのか、ローマに叛逆していると訴えるぞ」ということになります。

回し者は、それを狙っていたのです。

3) 皇帝のものは皇帝に、神のものは神に

イエス様の答えは彼らの狙いを見事に外しました。

24 「デナリオン銀貨を見せなさい。そこには、だれの肖像と銘があるか。」彼らが「皇帝のものです」と言うと、

25 イエスは言われた。「それならば、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」

デナリオン銀貨には「皇帝の肖像」と「神にして大祭司」という銘が刻まれていました。

そして、それを確認して「それならば、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」と言ったのです。

「皇帝のものは皇帝に返し」「神のものは神に返す」というメッセージには「負い目を返済する」という意味があります。

皇帝の肖像があるわけですから「皇帝のもの」であることは間違いありません。

それはローマの統治に負い目があることを示しており、納税という形で返すのは当然だと言います。

そして、皇帝のものを皇帝に返すことを語ったイエス様は、それだけでなく「神のものは、神に返しなさい」と伝えました。

よくよく考えると、ローマ皇帝も含めて、全ての生き物は、神によって生かされ、存在しているのですから、神様に依存し、負い目を負っていることになります。

「神のものは、神に返しなさい」

それは、ただローマに税金を払ったら良いのか、それとも、それはしないほうが良いのかという討論ではありません。むしろ、もっと大事なことがあると教えているのです。

それは、あなたは「神に対して神のものをしっかり返しているか」という質問です。

さて、私たちにとって、この対話はどんな意味があるのでしょうか。

納税をすべきかどうか、という問題ではなさそうです。

むしろ、納税は当然とした上で、あなたは神に対して「負い目」を感じたり神によって「生かされてきた」「守られてきた」ことをしっかり認識しているかどうかということについて探られます。

私たちは神様に対しての「感謝」「賛美」「礼拝」「献金」などを「喜びをもって応答して」いるでしょうか。

しかも、義務や強制による「負い目の返還」ではなく、「感謝のささげもの」としての

「神に返す」ことについては、どうでしょう。

イエス様はマタイによる福音書 6 章に

1 「見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意しなさい。さもないと、あなたがたの天の父のもとで報いをいただけないことになる。

2 だから、あなたは施しをするときには、偽善者たちが人からほめられようと会堂や街角でするように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない。はっきりあなたがたに言うておく。彼らは既に報いを受けている。3 施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない。4 あなたの施しを人目につかせないためである。そうすれば、隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる。」と語りました。

また、パウロはコリントの信徒への手紙第二の 9 章に

7 各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです。

と語りました。

さらに、「受けるよりは与えるほうが幸いです」という言葉も語りました。

これらのことをしっかり踏まえた上で「神様への捧げ物」を考える必要があります。

「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」

あなたにとって、この言葉はどういう意味があるでしょう。

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/DoROvEfGurM>